

すばる科学諮問委員会報告

安田直樹 (Kavli IPMU)

委員会メンバー

相川祐理 (東京大学)
本田充彦 (岡山理科大学)
生駒大洋 (国立天文台)
伊藤洋一 (兵庫県立大学)
稲見華恵 (広島大学)
児玉忠恭 (東北大学)
小谷隆行 (ABC)
栗田光樹夫 (京都大学)
宮崎聡 (国立天文台)
守屋堯 (国立天文台)
西山正吾 (宮城教育大学)
濤崎智佳 (上越教育大学)
安田直樹 (カブリIPMU)
井上昭雄 (早稲田大学)

委員長
Ex-officio (TAC委員長)

Observers

吉田道利 (ハワイ観測所長)
神戸栄治 (ハワイ観測所)
高見英樹 (ハワイ観測所)
山下卓也 (TMT)
青木和光 (TMT)
関口和寛 (国立天文台)
Sanders, David (UH)

春以降の議論項目

- すばる戦略枠 (SSP)
 - Infrared Doppler (IRD)
 - Prime Focus Spectrograph (PFS)
- Roman-Subaru協調観測の枠組み
- すばる夜数を貢献とする Rubin/LSST への参加
- Gemini Fast Turnaround 枠の制限

IRD-SSP/PFS-SSP

- IRD
 - 2022年4月に中間審査を行う。

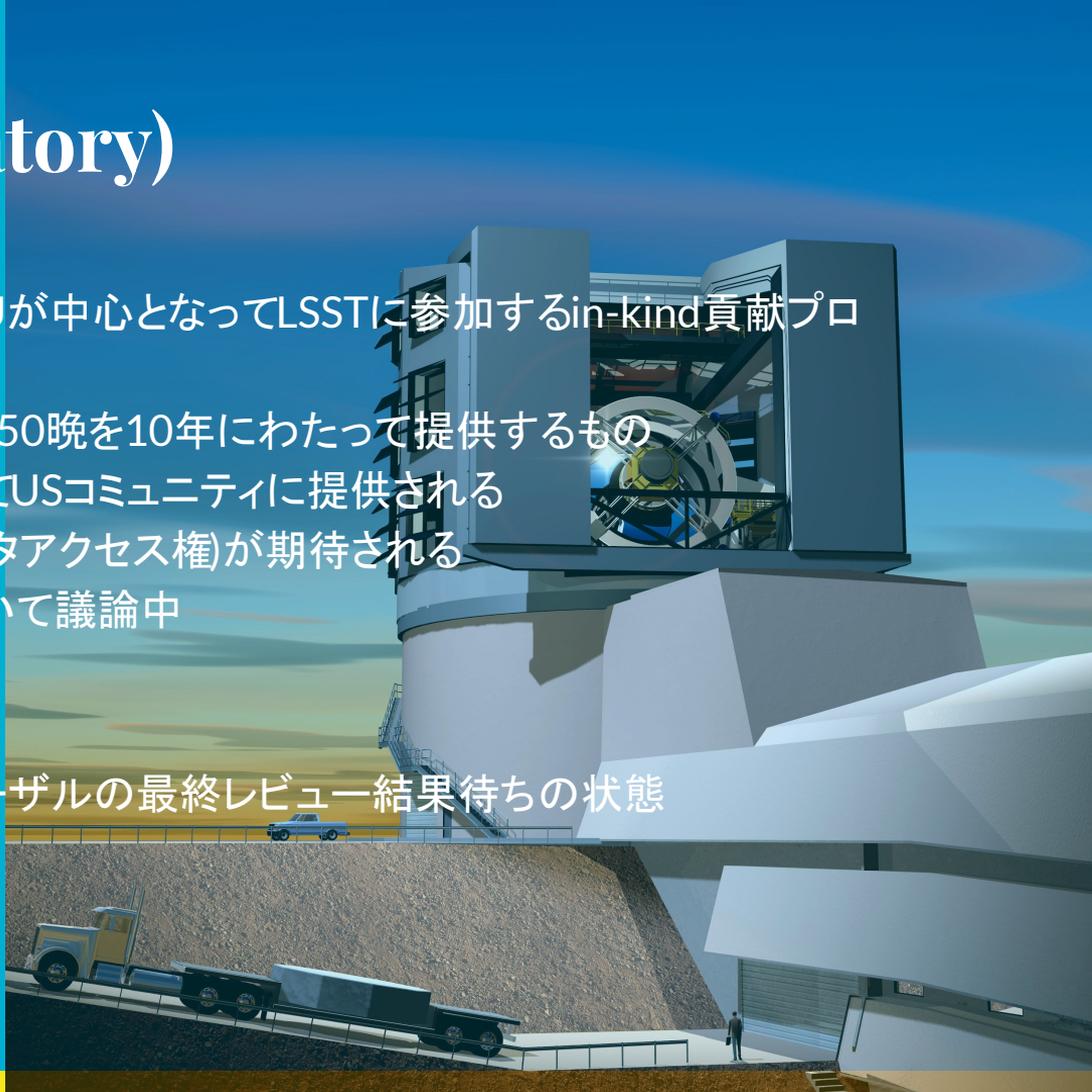
- PFS
 - PFS-SSPはS23B開始を目指す。
 - SSPの call for proposal は2022年10月を予定。
 - 重複制限については、SSPの科学的目標が達成されると同時に一般共同利用によるサイエンスの機会が失われることがないように調整中

Roman-Subaru協調観測

- すばるコミュニティはすばる夜数100晩をRoman宇宙望遠鏡との協調観測に使うことに合意している。
- PFS-SSPの終了後に始まる予定だったが、PFS-SSP開始前の観測開始が検討されている。
- 協調観測で取得されるデータはNASAの open sky policy に従い即時公開になることを確認した。
 - コミュニティへの説明会も実施してもらった。

LSST (Rubin Observatory)

- 国立天文台とカブリIPMUが中心となってLSSTに参加するin-kind貢献プロポーザルを提出した。
- 大きな貢献がすばる夜数50晩を10年にわたって提供するもの
 - 時間交換枠に準じてUSコミュニティに提供される
- 最大30人程度のPI(データアクセス権)が期待される
 - 選定方法などについて議論中
- 現在in-kind貢献プロポーザルの最終レビュー結果待ちの状態



Gemini Fast Turnaround

- 毎月募集があり、申請者間でレビューして観測時間が割り当てられる。
 - 日本コミュニティからも積極的に利用されていたが、ここで消費されている夜数がTACでのGemini課題選定に反映されていなかった。
 - そのため、現在、すばるはGeminiに10晩程度の借金のある状態。
 - PFSの運用開始までに借金を返すべく、当面制限を設けることにした。
-
- 申請は奇数月のみ可能
 - 各月の最大合計夜数は4時間

まとめ

- すばる望遠鏡の科学運用に関する事項を議論
 - 共同利用からSSPまでの夜数割り当ての枠組み
 - 他の望遠鏡・施設との協力・協調
 - 国際パートナーシップ
- 議論の詳細は議事録で確認できます。
https://subarutelescope.org/Science/SACM/j_index.html
- SACで議論すべき事項があればSAC委員にご連絡下さい。
- 「すばる3」の検討にもご参加下さい。